

東金市版人口ビジョン及び総合戦略（九十九里地域広域連携）の概要

1 基本的な視点

全国的な少子高齢化・人口減少社会の流れは紛れもなく東金市にもやってくる。これらの状況乗り越え、東金市が将来においても人が集まるまちであるためには、地域課題を解決しつつ、市町村間の連携を含めた新たな視点によるまちづくりへの積極的な取り組みが必要である。

市民が自信と愛着をもって暮らせるまちづくりのために、東金市ならではの地方創生の取り組みを次のとおり進めるものとする。

2 人口ビジョン及び総合戦略の期間

人口ビジョン：2010年をベースに2060年を展望

総合戦略：平成27年度～平成31年度（5年間）

人口ビジョン

I 東金市の状況分析

(1) 人口の状況

- 東金市の総人口は、2010年10月現在、61,751人。2060年には34,194人（約2.7万人、約45%の減少）になることが予測される。（社人研推計による）
- 生産年齢人口は約63%減少。

(2) 出生・死亡、転入・転出の推移

- 合計特殊出生率は、2013年は1.34。
- 出生数は、2013年は434人で、ピーク時の約8割。

(3) 高齢化の状況

- 高齢化率は、2010年現在20.8%、2060年には48.5%まで上昇すると予測される。2.1人に一人が高齢者。

II 東金市の将来展望

(1) 将来展望に向けた分析

- 少子高齢化への対応
⇒ 少子高齢化に対応する社会づくりを行うとともに、より健全な世代構成を築く必要がある。
- 人口減少への対応
⇒ 今後も、出生率の向上を図り、自然減少に対応するとともに、子どもを産み育てる年代の層を増加させる施策を展開させる。
- 若い世代にみられる市外への転出傾向への対応
⇒ 学生が学校を卒業後、市内もしくは近隣市町で就職することなどにより転出数を減少させる必要がある。
- 大都市への転出超過への対応
⇒ 都市部への転出を減らすとともに、転入を増やす必要がある。
⇒ 退職後、東金市で暮らしたいと思う環境づくりを行う必要がある。

(2) 人口の将来展望

- 出生率は2040年で2.07、2060年で2.33を達成
- ファミリー世代の移動率を毎年7%改善、社会増実現
- 2060年の人口は約50,000人、高齢化率は36.4%

III 目指すべき将来像

豊かな環境と便利さを兼ね備え、人が集まるまち「東金」

基本目標

げんきづくり
for VITALIZATION
～魅力あるまちをPRし人を呼び込む～

みらいづくり
for NEXT GENERATION
～子育てのしやすい環境を整える～

まちづくり
for COMFORTABLE CITY
～住みやすいまちをつくる～

しごとづくり
for JOB CREATION
～地域に雇用を創出し、働きやすい環境を整える～

きずなづくり
for FRIENDSHIP
～地域間の連携を目指して～

目指すべき将来の方向を実現するために、5つの柱からなる総合戦略を推進します！

施策

1. 学園のまちの特色を活かし、市民と大学が連携し、まちを活性化
2. 首都圏の近郊に位置する便利な立地特性を活かし、人が訪れたいくなるような魅力をPRする
3. 地域の魅力を高め地域力を底上げしてまちを明るく元気にする

1. 安全面や経済面から子育て世帯を支援する
2. 出会いから子育てまで切れ目無く支援する
3. 教育・保育の現場と地域・家庭が一体となって子どもを育てる
4. 働きながら産み育てやすい環境をつくる

1. 交通機能を使いやすく改善し、安全で便利なまちにする
2. 市民や来訪者など多様な人が集まる拠点や魅力スポットをつくる
3. 市と市民が協働で安心して住み続けられるまちをつくる
4. 快適な住まいの場を提供し、新たな定住者を迎え入れる

1. 豊かな地域資源の活用や新技術の導入により、時代が求める産業を地域から生み出す
2. 人の流れを促し雇用を創出する新たな産業の導入・育成を図る
3. 多様な選択肢が可能となるよう生活と仕事の両立に向けた取り組みを進める
4. ニーズが高い健康・福祉部門を充実させながら雇用を創出する

1. ともに生活する地域がひとつになり、水準を落とさずに効率的に運営する
2. 便利で快適、安心・安全な暮らしを確保する地域のつながりと絆を深める